

## 27 明倫短期大学附属歯科診療所における訪問歯科診療の実態調査 — 第一報：訪問件数の動向 —

市川伸彦<sup>1</sup>, 河野雅之<sup>1</sup>, 加藤由香里<sup>1</sup>, 廣安和枝<sup>1</sup>, 井田貴子<sup>4</sup>, 江口香里<sup>4</sup>, 宮 福子<sup>4</sup>, 小林 梢<sup>1</sup>  
水橋庸子<sup>1</sup>, 春川麻美<sup>1</sup>, 鈴木紗都子<sup>1</sup>, 涌井英恵<sup>1</sup>, 椎谷 恵<sup>1</sup>, 五十嵐有沙<sup>1</sup>, 八幡可奈子<sup>1</sup>  
小林智美<sup>1</sup>, 牧野真理<sup>1</sup>, 白井貴美<sup>1</sup>, 赤川貴行<sup>2</sup>, 森田知治<sup>2</sup>, 木暮ミカ<sup>1,3</sup>

<sup>1</sup>明倫短期大学 附属歯科診療所, <sup>2</sup>事務局, <sup>3</sup>歯科衛生士学科, <sup>4</sup>新潟大学歯科補綴学第1講座

keywords : 訪問歯科診療, 実態調査, 高齢化社会

### はじめに

高齢者対策強化の目的で策定されたゴールドプラン（高齢者保健福祉推進10ヵ年戦略）にはじまり、当初予想よりも高齢化が進んだことから、1994年全面的に改定され、新ゴールドプラン（高齢者保健福祉計画）となる。2000年4月の介護保険制度の導入で生じる新たな需要に対応するため、新ゴールドプランの柱は在宅介護の充実が策定され、いかに活力ある社会を作っていくかを目標にすすめられた。さらに、グループホームの整備を具体的な施策として掲げたゴールドプラン21と政策がとられてきた。

本学開学から、附属診療所では歯科訪問診療に取り組んできた。高齢化社会の進展にともない、高齢者を取り巻く環境は変化してきた。そこで、長年に取り組んできた歯科訪問診療の件数の推移について調査したので報告する。

### 対象および方法

訪問診療の診療報酬請求に関するレセコン・コンピューターのデータ（経理資料）、介護支援センターの記録から抽出し集計し、H14年度からの14年間のものとした。また、本学附属の介護支援センターがスタートして日が浅く、こちらのデータはH26、27年度の2年分とした。

調査内容は以下の項目につき行った。

- (1) 外来、訪問診療別の延べ患者数
- (2) 訪問診療における施設、居宅別の延べ患者数
- (3) 介護支援センター経由の患者数
- (4) 訪問先実施設数

### 結果および考察

患者数の内訳（図1）をみると外来患者数は調査期間を通じて、ほぼ同程度で推移している。一方、訪問診療患者数は増加していることから、合計患者数の伸びは訪問診療に依存しているといえる。また、訪問診療の患者数はH17に大きく伸びており、訪問先施設数は大きくは変わらないことから別の要因が考えられる。訪問診療の強化として原則的に施設には週に1回の訪問を行うようにしていたこと、訪問診療の精励金制度の確立が関わっている可能性がある。今後は増加し続けている訪問診療を安全に、受診者からの良い評価を継続していくための見直しが必要である。

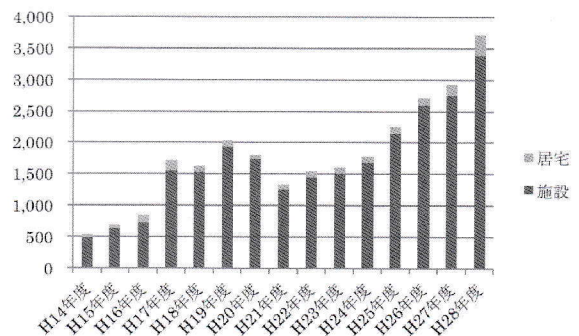


図1 結果

表1 介護支援センターからの紹介件数

	件数(実数)	介護支援センターケアマネ担当	外来→往診
H26	12	2	6
H27	20	3	7
H28(6ヶ月)	26	5	8

### 謝辞

調査に当たり、明倫短期大学経理課、附属介護支援センター職員の方々の御協力のもと実施できたことを、ここに深謝いたします。